

SERIES

環境 ENVIRONMENT

みんなが優しくすまわち

うるおい 環境都市むこう

有害物質による環境汚染を防止するために ダイオキシン発生の元となる「野焼き」は、やめましょう

野焼きをすると、ばい煙や悪臭だけでなく、有害物質であるダイオキシンが発生します。ダイオキシンは、燃焼過程で十分に温度が上がらない状態や酸素が足りない状態で不完全燃焼を起こしたときに、発生しやすいと言われています。廃棄物は野焼きせずに、市のごみ収集や、資源物の分別収集に出すなど適正な処理をしましょう。

野焼きは法律で禁止されています

野焼きや不適正な焼却は、平成13年4月に改正された「廃棄物処理法」で、特別な場合を除いて禁止されています。



ドラム缶での焼却や、穴を掘っての焼却も野焼きになります。違反すると懲役3年以下または300万円以下

下の罰金またはその併科に処せられます。除外される特別な場合とは、風俗習慣上、宗教上の行事に必要な廃棄物の焼却や、たき火など軽微なものなどです。ただし、この場合も周辺から苦情などがあれば、改善命令や各種の行政指導の対象となります。また、現在市販されている家庭用小型焼却炉のほとんどは、平成14年12月1日から施行される焼却炉の構造基準を満たしていないため、使用できなくなりますのでご注意ください。

ダイオキシンを減らすためにできること

日本におけるダイオキシンの約9割は、廃棄物を焼却する際に発生しています。ダイオキシンを減らすためには、発生の原因である廃棄物の量を減らすことが大切です。ごみの減量や、リサイクルを行い、環境にやさしいライフスタイルに変えていきましょう。

お問い合わせ 環境政策課環境対策係(内線232)

健康 HEALTH

最近、子どもの食生活の乱れが目立ちます 幼児期の食習慣がその後の食生活、健康に与える影響は

幼児期は、人の一生の基盤となる時期で、この頃に獲得した食習慣は、子どもの一生の食生活における態度や、健康状態に大きく影響します。

子どもは成長がめまぐるしく、身体が小さい割に多くの栄養を摂らなければなりません。そのため、朝、昼、夕の3回の食事と、補食としての1~2回の間食(お菓子ではありません)が必要です。規則正しくバランスのとれた食事は子どもの成長発達を促す上で重要ですが、最近の子どもの食生活の状況は心配な様子が見られます。

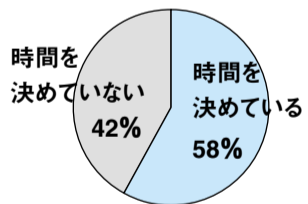
朝起きるのが遅いので、朝食を食べる時間が遅かったり、食べない子どもや、時間を決めずにおやつをだらだら食べ、毎日ジュースを飲んでいる子どもが多くいます。おやつの内容は糖分、脂肪分の多いお菓子を

好んで食べています。野菜を食べないので野菜ジュースをかわりに飲ませているということがありますが、野菜ジュースにも飲みやすくするために糖分が入っています。お菓子やジュースは虫歯の面で気になりますし、お腹がふくれて食事が食べられず、必要な栄養がとれないという点でも心配です。

近年、お菓子や清涼飲料水だけでなく、食生活をめぐる環境は著しく変化してきています。調理済み食品や外食産業の増加、夜遅くまで開店しているスーパーやコンビニが多くなり、いつでも手軽に食品が手に入ります。また、最近は狂牛病や食品添加物等の新しい問題も注目されています。

「おふくろの味」と言われるように、子どもの頃に食べた料理の内容や味付けは大人になってからの嗜好に関係します。手作りの料理を家族で食べる、楽しい食卓の経験が子どもの安定した情緒の発達を促し、身体だけでなく心の栄養にもなります。簡単ではありませんが、「食卓」という場によって得られる子どもの栄養はとても大事なのです。

1歳9か月児のおやつ時間



お問い合わせ 健康管理課(内線333、338、339、357)

BOOKS

BOOKS INFORMATION 新着図書のご案内

PICK UP

【児童図書】



「おじいさんと10びきのおぼけ」にしかわおさむ・作・絵 ひかりのくに株式会社 おじいさんにある日プレゼントがとじた。プレゼントはなんと10びきのかわいいおぼけでした。

一般図書

- 40代、転機を乗りきる「人間力」 響田隆史著 講談社
● ひとが否定されないルール 日木流奈著 講談社
● ONとOFF 出井伸之著 新潮社
● メダカと日本人 岩松鷹司著 青弓社
● ほんの甘いひんやりデザート 加藤奈弥著 永岡書店
● これでいいのか日本の食料 ジェームス・R.シンプソン著 家の光協会
● 一日一書 石川九楊著 二玄社
● 日本人なら知っておきたい日本語 井口樹生著 幻冬社
● 平成三十年(上・下) 堺屋太一著 朝日新聞社
● 異聞・武蔵剣刃録 新宮正春著 新人物往来社
● まじめな生活 大橋歩著 大和書房
● 山火事 ネヴァダ・バー著 小学館

児童図書

- ずら〜りカエルならべてみると... 高岡昌江作 アリス館
● こどももできる昔ながらの押し花 清水はるこ著 ブティック社
● はり絵おりがみ 桃谷好英ほか著 誠文堂新光社
● ドルフィン・エクスプレス 竹下文子作 岩崎書店
● まじよのめざまし 茂市久美子作 ポプラ社
● コーンウォールの聖杯 スーザン・クーパー作 学研
● ふたりのアーサー 予言の石 ケビン・クロスリー=ホランド作 ソニー・マガジズ
● あいさつはいつも「なまけんぼう」 エレーナ・ガボワ作 学研
● つみきつんでもっとつんで 土屋富士夫作 徳間書店
● ありんこぐんだん 武田美穂作 理論社
● だれをのせるの、ユニコーン? エイドリアン・ミッチェル文 スティーブン・ランバート絵 評論社
● しりとりにあそびえほん 石津ちひろ文 荒井良二絵 のら書店

お問い合わせ 図書館 ☎931-1181

MUKO CITY 30th ANNIVERSARY

記念式典会場をはじめ公共施設を花で彩ります

心のふれあいを通して花いっぱいのにまちに

花は私たちの心に安らぎを与えてくれるだけでなく、育てることを通じて心の優しさを育ててくれます。

市では、市制施行30周年を機に「子ども花いっぱい運動」をスタートします。次代を担う子どもたちに、命の大切さを知ってもらい、心豊かな人間になってもらいたいという気持ちが込められています。

ふれあい交流で花を育てる

第4向陽小学校と老人福祉センター琴の橋では、4年生の児童と琴の橋の園芸サークルが共同でコスモスを育てます。

琴の橋と第4向陽小学校は、これまでにもふれあ

い給食や昔遊びなどで交流を深めてきました。今回の「花いっぱい運動」でも種まき、水やりなどの共同作業を通じて心と心をつなぎます。

児童らが育てたコスモスは、10月の市制施行記念日に合わせて、記念式典会場の市民会館をはじめ、公共施設周辺を彩り、私たちの目を楽しませてくれます。



花いっぱいの魅力あるまちへ

夏のひまわり畑、秋のコスモス畑など、市では、これまでにも花いっぱいのまちづくりを進めてきました。

「子ども花いっぱい運動」をきっかけに、家庭や店先にも花がある、花いっぱいの魅力あるまちを築いてい



7月15日、「花いっぱい運動」がスタート。まずは、プランターにステッカーを貼る作業